

平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対談(尾鷲市)会議録

- 1 . 開催日時 : 平成 26 年 10 月 1 日 (水) 15 時 00 分 ~ 16 時 00 分
- 2 . 開催場所 : アクアステーション 1 階 展示室、体験学習兼セミナー室
(尾鷲市古江町 806 番地)
- 3 . 対談市町名 : 尾鷲市 (尾鷲市長 岩田 昭人)
- 4 . 対談項目 :
 - (1) 人口減少対策について
 - (2) 「食」によるまちづくりについて
 - (3) 林業振興に向けた取組支援について
 - (4) 都市計画道路尾鷲港新田線の整備について

5 . 会 議 録

(1) 開会あいさつ

知 事

皆さん、こんにちは。岩田市長におかれましても、今日はお忙しい中に「1 対 1 対談」のお時間をいただきまして、ありがとうございます。

今年は尾鷲市制 60 周年、また、熊野古道世界遺産登録の 10 周年でもありますので、この節目の年の 1 対 1 対談ですので、今日、議題にも上がってきますが、人口減少や働く場をどういうふうにつくっていくかとか、こういう今後の尾鷲市や三重県、東紀州地域の今後に向けての有意義な時間にしていけたらと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

尾鷲市長

皆さん、こんにちは。知事におかれましては、このような機会をつくっていただきまして、本当にありがとうございます。

知事にも言っていたいただきましたが、尾鷲市は市制施行 60 周年記念、それから、熊野古道世界遺産登録 10 周年と記念的な年になっております。

県におかれましては、様々な方面でご支援とご協力をいただいております。感謝申し上げます。ありがとうございます。

ちょうど今年の 3 月 30 日ですが、紀勢自動車道が全通いたしました。今までは平均しますと年に 4 ~ 5 回、道路が雨量規制のために止まって尾鷲が孤立していましたが、これにより、そういうことがなくなりました。観光・物流はもちろんですが、我々としては命の道としての効果を実感しているところです。尾鷲にとりましては、本当に大きな課題が、県や国などのたくさんの機関のご尽力によって成し遂げられたという実感をしております。

今日は、少子化対策や「食」によるまちづくりなどの 4 つのテーマを用意さ

せていただきましたので、ご議論をどうぞよろしくお願いいたします。

(2) 対 談

1 人口減少対策について

尾鷲市長

それでは、1番目の項目としまして、人口減少対策ですが、ご存じのように先日の日本創成会議の発表で、全国で2040年には20代や30代の女性が半減してしまい、いわゆる消滅都市の可能性があると、896の地方自治体が位置づけられています。本市はその中で人口1万人未満になるだろうという、特に消滅の可能性が高い都市として東海3県の市では唯一の指定をされました。

人口減少問題は今に始まった話ではないですが、本市においては50年来ずっと人口減少が続いておりまして、大きな課題であります。

最近では三重県南部活性化推進事業の支援も受けまして集落の魅力づくりに取り組んでおります。先ほど見ていただいた三木浦町や早田町とか、住民主体で積極的な動きも出てきたばかりのことでしたので、我々としては大変ショックを受けたところです。

しかし、県内では本市だけが特に消滅の可能性が高いと言われた市である以上、本市がフロントランナーとして全国に先駆けて積極的に取り組んでいかなければならないのではないかと。尾鷲市から解決策、打開策を見出していくという思いの中で、9月の定例会においても対策に関する補正を計上したところです。

このようなことから、県におきましては、少子化対策を政策の最重要課題に置いて全県を挙げて取組を進められておりますが、現場の1丁目1番地は尾鷲市ですので、その点を酌んでいただいて、この問題に対して取組を支援していただきたいと思っております。

本市では、この問題に対しましては、「定住・移住促進」と「少子化対策」の2本の観点から取組を進めていきたいと思っております。

まず、定住移住促進では、集落支援をはじめ空き家バンク、これは始めたばかりですが、空き家バンクの活用、全国へのPRなどに取り組んでいきますので、県としても最大限のご支援をお願いしたいと思います。

少子化対策につきましては、まだ緒についたばかりですが、子育てに関するまちづくり会議をPTAの方や地域の方々と共に発足させまして、子育てしやすいまちづくりを進めていくとともに、まだ仮称ですが、少子化フォーラムを本市において開催するなど、本年度を人口減少対策のスタートアップの年と位置づけて、本市の施策の最重要課題として、一層推進していかねばならな

いと思っております。

これからの少子化対策、人口減少対策、男女共同参画などの取組を三重県と尾鷲市が一体となって取り組んでいけるような、今後の関連する事業において、ぜひご指導、ご協力をお願いするところです。

知 事

まず、今の人口減少の危機感に対して、岩田市長から課題があるからこそ、全国に先駆けてこの課題に積極的に取り組んで、尾鷲市から解決・打開策を見出していくという想いで頑張っていくとおっしゃっていただいたことは、大変心強いと思っておりますし、私たちもしっかりと応援をさせていただきたいと思っております。

せっかく今日は一般傍聴の方も来ていただいていますので、県が取り組んでいることや、これから取り組みたいこともご紹介しながら、少しでも長くなると思いますが、お話をさせていただきます。

今、岩田市長からありました人口の減少ですが、ご案内のことだと思いますが、人口の減少は2つあって、1つは、生まれてくる子が亡くなる方よりも少ない、生まれる子が少なくなっていく自然減少「自然減」というのが1つあります。

もう1つは、仕事や学校でこの地域を出ていって、そういう社会的理由によって出ていく「社会減」、この2つが人口減少にはあると思います。そのうちのまず「自然減」、生まれる子どもの数が少なくなっていくということですが、これは今、皆さんもご案内が分かりませんが、三重県の「合計特殊出生率」という、いわゆる15歳から49歳までの既婚や未婚を問わず、一人の女性が産む子どもの数を「合計特殊出生率」といいますが、それが三重県は1.49であって、全国平均が1.43、三重県は去年は1.47だったので、少しずつ上がっているんですね。一番低いのは東京です。1.13。東京は今人口が多いですが、子育てはしにくい、子どもは生まれてこない、というような状況にあります。

この合計特殊出生率、少子化対策をやっていくときに大事なことは、「産めよ増やせよ」みたいになってはいけないと。子どもを産むか産まないか、結婚するかしないかというのは、基本的にはその人が自分の価値観の中で選んでいただくことなので、希望をかなえることが一番大事だと思っています。

ちなみに、合計特殊出生率、戦後直後は、団塊の世代の皆さんが生まれたときですが、日本の合計特殊出生率は4ぐらいありました。今、世界の先進国は、大体フランスが2、スウェーデンも2ぐらいで、日本の1.43よりも低いところはあまりなくて、韓国が少し低いというぐらいの感じになっています。

希望がかなうようにしていこうということですが、三重県はどうかというと、

三重県が毎年、みえ県民意識調査というのを大体1月から2月ぐらいに1万人の方にアンケートを取って、幸福度調査みたいなものをやらせていただいておりますが、そのときの調べた結果によると、大体理想の子どもの数が2.5人。「1.5」というのはないので、2人以上、2人か3人というのが、大体三重県民の皆さんの理想の子どもの数です。

しかし、現実の子どもの数は1.7ということで、1人か2人ということです。なので、1人分、本当は欲しいけれども希望がかなっていない状況にあると思います。

では、「産めよ増やせよ」ではないですが、希望をかなえるために応援していかうということで、どういうことが原因かということ、いろんなことがあります。例えば、一つは若者が働く場があまりなくて、経済的に結婚してもやっていけるような収入が得られないということとか、あるいは、結婚したいけれどもなかなか結婚ができない、あるいは、結婚してもすごく遅い、「晩婚化」といいますが、すごく遅くに結婚してしまって、その後、子どもを産むことができないとか、あるいは、子どもが欲しいけれども、例えば不妊などの体の事情でなかなかできないケースもある。あるいは、子どもがもっと欲しいけれども、保育所やそういう部分の整備がないので働きながら子育てができないから、どうしても子どもをあきらめてしまう。いろんな事情があると思うので、そこは地域によってそれぞれに分析をして、地域の実情に合わせた応援をしていかなければならないということにしています。

例えば、県を超えて比べてみると、東京などはよくテレビなどで待機児童とかいろいろ言われますが、何千人と待機児童がいますが、三重県はちょっと今年多くなりましたが、今年、県全部で待機児童は48人です。

では、東京や都会では待機児童の対策をするが、三重県ではむしろ待機児童の対策よりは、先ほど言った若者の働く場の就労とか結婚の機会を応援するとか、そういうような形で地域ごとに対策を取っていかなければならない。

ですので、三重県の中でも、例えば四日市市や津市と尾鷲市では、全然抱えている課題が違うので、ここから正に今年度、来年度、尾鷲市さんで少子化対策を1丁目1番地にしていただくということですので、ぜひ、一緒になって尾鷲市の少子化、希望をかなえるということで、どこがネックになっているのか、そういうのを一緒に課題分析をさせていただくことが大事かと思っています。

それに合わせて、県から市に対しても、また、国が市に対しても少子化関係の交付金というのがありますので、それは地域の実情に応じて地域の使い方判断できるようなものですから、まず、原因がどういうところにあるのか、一緒になって分析をしていく、そういうところから始めていかなければいけないかと思っています。そういうことをやっていければと思っています。

次は、先ほど申し上げた「社会減」ですね。若者が学校へ行くとき、あるい

は働くときに、自分たちの地域から出て行かざるを得ないということです。まず、大学、この辺では高校のことであるかもしれませんが、県で大学の話でいきますと、毎年、三重県中で四年制大学に行く子が、大体 8,200 人ぐらいいるんですね。そのうち、三重県内の四年制大学に行く子は 1,600 人ぐらいです。だから、残りの 6,600 人は県外に行ってしまうんですね。愛知県には 3,900 人行ってしまいます。

では、8,200 人の子たちが、仮に三重県内の学校を全員希望したら全員行けますかといったら、三重県内の四年制大学を全部足しても、その定員が 3,200 しかないんです。8,200 人大学へ行きたいという高校生の子たちがいるのに、3,200 人分しか三重県内には定員がない。では、定員を増やしていく努力をしていかないといけないし、これは我々、国に働きかけて。東京はその倍です。大学へ行きたいと思う高校生の倍、大学の定員があるので、みんな全国から集まってきますね。

そういうのをなんとか回避していくために、もしかしたら三重県内に学ぶ場があることをまだまだ今の高校生や中学生が知らないかもしれないから、それをしっかり知ってもらうような努力をしていこうとか、あるいは、それぞれの大学や高専がもっと魅力アップして、愛知県や大阪府ではなくて、この三重県の高等教育機関に行きたいと思うような学ぶ場の魅力アップ、こういうようなことも含めて若者が三重県に定着していけるような形で、来年度は特に学ぶ場を中心として、若者の県内への定着の取組をしっかりやっていきたいと思っています。

そのためには学ぶ場を三重県でつくったにしても、卒業した後、働く場が地域にないといけない。なんといっても働く場が一番大事ですので、その部分については、今回、中小企業の条例をつくったりいろいろしていますが、働く場を増やす努力をしていこうと思っています。

そこで、先ほど市長からもおっしゃっていただいた定住移住の促進についても、確か 3 年前の岩田市長との 1 対 1 対談で「南部地域活性化基金」をつくりますという話を最初にしたと思いますが、南部地域活性化基金の目的は基本的には若者の定住を進めていただくということです。先ほど市長からもご紹介があった早田地区とか三木浦地区、早田地区は、平成 26 年度の全国過疎地域自立促進連盟会長賞を受賞されたということですので、そういう取組が少しずつ芽生えてきているという情報を発信するとともに、移住相談会等を東京・大阪・名古屋で開催しております。いろいろ調べてみたところ、「住んでいただければ、これだけ補助金を出します」とか「住んでいただければこれだけ家賃を安くします」というのでは、もう移住者は来ないそうです。住んでいただく場合は働く場も一緒にあっせんしますとか、移住の家のことだけではなくて、仕事もセットで相談に応じることが必要だと思っています。そのほか、ご家族もお

られるので保育園もあっせんするなど、暮らすことのパッケージで相談に乗ると移住を決めていただく確率が高く山梨県が移住人気の全国2位になった要因も、こういう相談体制があったためではないかとのことです。

今回、空き家バンクを始めていただいたので、空き家や住む場所「家」だけではなく、働く場や保育園などに関しても相談に乗るとよいのではないのでしょうか。首都圏の30代の男性のうち3割の人が機会があれば田舎へ移住したいと思っているらしいので、それはチャンスですから、相談体制の確立なども一緒に情報発信とともにやっていかなければならないと思っています。

人口減少問題の解決にはホームランのような決定打はないと思います。この施策を打ったら完全に解消できるという政策はないと思います。このため、県も尾鷲市さんと一緒になって、どういうところに原因があるのか、どういうきめ細かな対応が必要か、一緒に知恵出しをして、今申し上げたような制度・情報発信・相談体制、いろいろなことをやっていきたいと思っています。

長くなりましたが、人口減少の政策について、ご紹介させていただきました。

尾鷲市長

内の議論と外から見た議論と2つの方法でやっていかないと定住移住にしても、交流にしてもなかなか難しいということで。まず、我々としては、「子育てに関するまちづくり会議」をみんなで議論をしていこうと。

それと併せて、前回も県の力を借りましたが、三重県内の移住者の皆さんに三木浦地区に集まっていたいただいて、いろんな意見をいただいて、移住する方、あるいは交流しようとしている方がどういう要望を持っているのか、そういったことをきちんと把握しながら、少子化対策に取り組んでいかなきゃならないと思っていますので、その辺でのご協力、また、いろんなご指導をいただきたいと思っています。

本当に尾鷲市はのっぴきならないところまで来てますので、我々も命がけでやるつもりでありますので、ご協力をよろしくお願いします。

知事

本当にそういう実際にIターンとかUターンとかをされてきた方の声を聞いてみるというのは非常にいいと思いますし、先ほども三木浦地区でIターンされた方の話を聞いたところ、その決め手の一つが、地域の皆さんが受け入れてくれるかどうかということも大きいというお話をされてましたね。私たち行政も地域を持続可能にしていくために一所懸命頑張りますが、移住者の人たちも受け入れていくような住民の皆さんの協力も、ぜひお願いしたいと思います。それぐらいに地域を守っていくためには大切なこと、みんなで取り組まなければならないことがあるので、ぜひ受入の協力も皆さんと一緒にしていただ

くとありがたいですね。

尾鷲市長

先ほども三木浦地区で出た話の中で、Eターンののに人の魅力というのが大きな要因だったと言われておりますので、ぜひ皆さんもご協力をいただいて、交流されようとする方、あるいは、移住されようとする方につきあっていただきたいと思います。

2 「食」によるまちづくりについて

尾鷲市長

2つ目の「食」によるまちづくりについてですが、最近、尾鷲市はどういうまちづくりを進めていくのかということにかけて、いろんな地域資源がありますが、いろんな地域資源を合わせて食の魅力を売っていく。あるいは、総合的なまちづくりの基本に「食」を置いてまちづくりを進めようとしております。

今日、古江地区に来ていただきましたが、海洋深層水もありますし、その海洋深層水を使ったいろんな製品も出ております。そういった事業の展開では、熊野古道の世界遺産登録などのいろんな地域資源がありますし魅力もあります。

しかし、それだけではないんじゃないかということで、尾鷲の魅力は何かということをよくよく考えてみますと、魚を中心とした「食」にあるのではないかということで、今までも「食」に力を入れてきましたが、それは断片的であったので、総合的にやらなければいけない。あるいは、横断的に「食」というものを取り入れてやっていくべきではないかとしております。

今後、地域資源を活用した「集客交流」や「物産振興」の方向性をなお一層進化させながら、より広い地域活性化に向けた効果の創出を図るため、「食」をやっていこうということで、今、新しい枠組みでのまちづくりの基軸として、「食」によるまちづくりの「尾鷲市「食」のまちづくり基本計画」というのを職員自ら策定しているところです。現在、観光集客と産業振興などを目的として地域消費の活性化を図るため、熊野古道とか海・山での体験等を組み合わせた着地型の観光商品づくりも進めております。あるいは、地魚料理を提供する「尾鷲よいとこ定食」の店も進めておりますし、「まちの駅」でこの前も知事に食べていただきました「おわせ棒」というのがありますが、そういった断片的な取組を、もっと総合的に進めていこうとしているところです。

「食」としてのポータルサイトもつくって、情報発信も市内外へ発信していくことも大事ではないかということでやっております。

そういったことから、ソフトだけではなく、港周辺に人・もの・情報を集

積させるような「食」の拠点づくりも必要ではないかということで、それも合わせて基本計画の中で議論を進めているところです。

今後、本市の「食」を通じた各分野での取組と、県における「食」における取組との連携協働できる部分等を協議して、全国に、欲を言えば海外までということですが、そういった展開をぜひ共に取り組んでいただきたいと思います。県におきましても、随分「食」に力を入れているところがありますので、連携して尾鷲市「食」のまちづくりをぜひ進めたいと思っております。

知 事

三重県も去年、神宮式年遷宮があって、たくさんの方が来ていただいて、これから何でさらに活性化していくかというときの大事な一つが「食」だと思っております。

「食」に関する産業というのは、大企業ではなくても取り組めるし、そういう意味では裾野が広くて雇用を生みやすいんですね。つまり、生産者の人がいます。それを加工する人がいます。加工して消費者に届けるまでラッピングやパッケージ、包装する人がいます。保存したりする人、運ぶ人、売る人がいますといういろんなところでいろんな雇用の関わり方、人の関わり方が裾野が広くできる産業だと思っておりますので、こういう東紀州地域や尾鷲市に非常に適した、さらに地域資源が多いですから、産業だと思っておりますので、市長が目をつけていただいた「食」を、断片的にではなく総合的にやるというのは、非常にいいところに目を付けていただいたと思っておりますし、県としても「食」の産業振興に全力で取り組んでいこうとしているところです。

三重県で全体では、今年、この10月に、外宮前で「みえ食の逸品フェア 2014」を開催すると、1月に「食のサミット」を開催しますが、来年は、ミラノでミラノ万博があって、そこに日本食の大きな建物が出て日本食をPRする。和食がユネスコの無形文化遺産になりましたので、そのPRするところに三重県も1週間、ブースを構えて、世界中の人たちに三重県の「食」をPRすると、平成29年には伊勢市で全国菓子大博覧会が行われます。4年に1回しかないイベントですが、平成25年は広島市でやって、2週間で人が80万人来て、経済効果166億円と言われている、すごいイベントがあるので、平成29年までこういういろんな「食」のイベントがあるので、「食」を集中的に取り組んでいこうと、今、我々も考えております。

特に海外への輸出とか、東京方面、関西方面に売っていく。あとは、尾鷲市の周辺のものであれば、県内の北勢地域の人たちにももっとしっかり食べてもらうということなどもありますので、今、フードイノベーションというので情報発信をしたり、輸出協議会で輸出の取組をしたり、いろんな取組をやらせていただいておりますので、尾鷲市さんの職員のメンバーで知恵を出してやってい

るプロジェクトが具体化してきたときに、あるいは、ハードの面でこういう拠点をつくっていくというのが具体的になってきましたら、具体的に連携できる部分を相談させていただいて、我々も一緒になってさせていただければと思います。

例えば、いろんな産品があるというのは一つの武器だと思ったのは、JETRO（日本貿易振興機構）という世界中に日本の物産などを売ったりする団体がありますが、それがシンガポールに富山の氷見のブリを売りにいくというプロジェクトがありました。氷見のブリを売りに行こうと思ったのですが、シンガポールで売る期間が決まっていて、そこが氷見のブリの良いのが捕れないと。それでは数を満たすことができないので、どこか全国でブリがおいしくて、その期間にうまく合うところがないかとJETROさんが探したら、三重県の尾鷲のブリのことが出てきて、シンガポールに富山のブリと尾鷲のブリと一緒に出て行って売られるということがあったりするので、旬をしっかりとって、いろんな産品があることを知ってというのを、住民の皆さんがしっかりとって、それをいつでも出せるようにしていくというのはすごく大事なことだと思うので、そういう今、総合的な計画で分析をしてもらっているのは、大変良いことだと思いますから、私たちも具体化していく中でいろんなご相談をいただきましたら、ぜひしっかりと対応していきたいと思いますので、共に尾鷲市の「食」、三重県の「食」を盛り上げていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

尾鷲市長

最近、名古屋、東京、大阪あたりで尾鷲の魚を扱っていますというレストランや和食の店が随分増えてきております。それも必要なんでしょうが、しかし、ただ単に生鮮品として魚を売るだけではなく何らかの加工を、尾鷲は干物は有名ですが、それ以外のいろんな加工品もぜひやっていきたいと思っております。南部地域活性化基金を使って、ぜひものづくりについても進めていかなければならないと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

知事

あと、三重県では食品加工のいろんないい機械を作ったりとか、そういう食品加工の高い技術を持った中小企業も県内にたくさんありますので、そういうところとマッチングして行って、この尾鷲のものを使った加工品で四日市市にある中小企業が投資するという話があるかもしれませんし、例えば、日本中に皆さんも飲むかもしれませんが、これぐらいのパックの野菜ジュースってありますね。伊藤園とかカゴメとかいろんなのがありますが、日本中のトマトジュースみたいな野菜ジュースの絞る機械の9割を作っている会社が四日市市に

ありますが、そういうような食品加工の技術の高い中小企業も三重県内にあるので、そういうところとマッチングしていくと非常にいいのかなと思ったりします。

尾鷲市長

それと、もう一つお願いですが、今、農商工連携とか六次産業化を地域内で進めてますが、地域内ですと限度があるのではないかと思いますので、市町をまたいで農商工連携なり六次産業化を進めることも必要ではないかと思っていますので、そういう面での先導をぜひ県にやっていただきたいと思っています。

知 事

そうなんです。今、観光とかもそうですが、全国的に見ても、自分とだけ良かったらいいとか、自分とこのものだけ売れたらいいというようなところは、全然売れてないですね、結果として。なので、今、市長がおっしゃったように連携をして、市を超えてやっていくのは大事なことだと思いますから、マッチングやコーディネートを我々もしていきたいと思っています。

3 林業振興に向けた取組支援について

尾鷲市長

林業振興に向けた取組支援ということで、尾鷲市は魚の町であるとともに木の町でありまして、市の全体面積の約 92%が森林で占められております。ヒノキを主体とした豊富な森林資源を持っております。尾鷲市の市の山でも、今、60年生の山が600ha ぐらいありまして、これを毎年10ha ずつ切っておりますが、全部切るには60年かかるぐらいのヒノキの山を持っています。

しかしながら、全体的に林業振興の部分で見えますと、森林所有者の高齢化や後継者問題などのほか、地域の林業や木材産業を取りまく環境は、本当に厳しいの一言でありまして、尾鷲ヒノキの生産量の低下や原木供給の不足が深刻でありまして、持続的な林業経営や木材産業の活力は、今、大きく失われつつあるところです。

県においては、造林事業や林道整備事業など様々な施策においてご支援をいただいているところですが、この厳しい現実をなかなか打開するまでには至っていないのが現状です。このような状況の中で、尾鷲市は市の山をたくさん持っておりますので、その市の山を計画的に主伐を進めております。平成25年度は9haの主伐を行っております。今後も計画の下に継続して伐採を行うことにしておりまして、このことは原木供給が不足している中で、尾鷲ヒノキの

供給の面でかなり貢献度が高いのではないかと自負しているところです。

一方、本年度は、中勢地区で木質バイオマスの発電所が稼働されると聞いておりますので、木質バイオマス燃料の需要が非常に高まることによって、葉っぱからもと返しまで未利用木材の活性利用が促進されるだけでなく、林業収入の下支えとなって林業会全体に好循環をもたらすと大きく我々も期待をしているところです。これらを契機としまして、今後も県と一体となって林業の再生に向けて積極的に取り組んでいきたいと考えています。原木供給量の増大を図るための主伐の推進策、また、主伐のできる人材の育成の取組だけでなく、健全な森林を育てていくための植栽、獣害防止対策と合わせたご支援を強力に押し進めていただくよう要望します。

それと合わせて、出口の問題です。何を作るのか、何に利用するかという問題が随分まだ足りないところがあると思っておりますので、これについてもご支援をお願いしたいと思います。

知 事

今、市長から「木質バイオマス発電」という話がありましたが、これは木をチップにして燃やして発電をするものですが、例えば、今まで利用していなかった、先ほど最後に市長が出口とおっしゃいましたが、例えば、家の建物のもので使うとか、そういう利用をされなかった間伐した木をチップにして燃やすということも今までやってきましたが、今回、木質バイオマスというのは非常にたくさんの雇用も生まれたり、クリーンなエネルギーということもあり、注目をされていまして、県内に木質バイオマスの発電所がいくつかできていく計画があります。それができれば、木を切る人、運ぶ人、チップに加工する人、それを発電所に運ぶ人、発電所で働く人というたくさんの雇用が生まれてきます。

同じクリーンエネルギーでも太陽光だとパネルを敷いて太陽光で発電して終わりですが、風力はパネルをおいて羽根が回って発電して終わりですが、木質バイオマス発電というのは、今言ったようにたくさんの雇用が生まれてくるので、非常に期待感が高くて、そこにはチップという燃料を安定的に求められる分、しっかり出していかないといけないですが、今、正に市長がおっしゃっていただいたように、搬出間伐だけではなく主伐までいかないといけないのではないかというところまで来ていますので、せっかく木質バイオマスの発電所が三重県の中でできていくチャンスなので、今、主伐を進めて素材の生産量を拡大して安定的に供給できるような方策を、ぜひ来年度に向けて検討していきたいと思っています。

来年度は一つ今言ったような木質バイオマスの発電のこととか、あと、「WOOD JOB！（ウッジョブ）」というのが津市美杉町で映画で出たりとか、あとは「み

え森と緑の県民税」というのを取り組ませていただいて、災害に強い森づくりをしたり、この前の広島市の土砂災害などで、森林を整備していかないといけないという皆さんの意識が高まっているチャンスでもありますので、来年度はぜひ林業の活性化を一つの県の中の重要なテーマに置いて検討をしていきたいと思っておりますので、その中で出口の話、素材生産量の安定のための施策をやっていきたいと思っております。

それから、獣害対策ですが、これは私たちが非常に苦慮をしまして、三重県は農林水産業の獣害、猿とか鹿とかイノシシによる被害が、平成 23 年の 8 億円がピークでした。正確には 8 億 2,000 万円ですが、24 年が頑張って 7 億円まで減りました。いろんな進入防止柵を張ったり、地域の皆さんのご努力や猟友会の皆さんの頑張り、あとは、猿が山から下りてこないように山の生息環境をつくったりいろいろやってきて、あとは、大規模な捕獲をなを開発したりして、25 年度、それが 6 億 2,000 万円まで減りました。なので、順調に減ってきてはいますが、それでもまだ 25 年の順位はまだ出ていませんが、24 年度の 7 億円ぐらいのときは、全国で猿による農業被害は 1 位とか、イノシシによるのは全国 17 位とか、鹿は全国 9 位とか、獣害が非常に厳しい県なので、三重県も平成 24 年度から獣害対策課というのを設けて、捕獲、利用に力を入れているところです。

今年の最初の通常国会で鳥獣保護法の改正があって、今まで捕獲は基本的に市町村でやっていただくところでしたが、県も捕獲できる改正になりましたので、捕獲について市町さんと協力をして獣害対策ができるような、それも来年度に向けてしっかり林業の活性化も含めて検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

尾鷲市長

特にこの地域は獣害が大きい問題でありまして、猟友会の皆さんも頑張っていていただいてますが、随分高齢化していますので、それに力を入れていただきたいと思っております。

おかげさまでみえ森と緑の県民税の関係で尾鷲市は宮之上小学校の生徒の皆さんに、机と椅子を父兄も力を合わせて作っていただいた、そういう取組をさせていただいています。

市としても公共建築物に木を使うのはもちろんですが、そういった身近なところでもっと木材を使っていくような取組を進めていかなければならないと思っております。

4 都市計画道路尾鷲港新田線の整備について

尾鷲市長

最後のテーマになりますが、よろしく申し上げます。

本市においては、近い将来、必ず起きるといわれている東海・東南海・南海地震に備え、いろんな防災対策をやっておりますし、公共施設の耐震化なども施策を進めているところです。

また、市民の皆さんの防災に対する意識や関心についても、随分高まってきておりまして、さらに、近畿自動車道紀勢線及び熊野尾鷲道路の進捗に伴って、市内の幹線道路についても早期の完成が強く望まれています。

その中でも一番望まれているのは、都市計画道路「尾鷲港新田線」であります。この道路は、他の幹線道路に比べ津波の影響を受ける範囲が少なく、早期啓開が可能なことから、この地の地域防災計画に定めた災害時の緊急輸送ネットワークの形成に欠かせないものであります。

また、東紀州の広域防災拠点と23年度尾鷲港港湾計画に基づいて、第4岸壁を耐震整備していただきましたが、それを結ぶ東紀州の広域防災拠点と耐震第4岸壁とを結ぶ唯一の道路として、東紀州地域における緊急物資の輸送についても、大きな役割を果たすのではないかと考えております。現在、尾鷲港新田線を県による広域的な観点での整備及び管理ができないかお願いをしているところでありまして、尾鷲建設事務所様、並びに県庁の皆さんと協議の中で、今、前向きに検討していただいているところです。本市としてもできるだけ協力はさせていただきますので、何とか早急な事業化に向けての検討をしていただければありがたいと思いますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

場所につきましては、お手元に配付させていただいております、右のほうに第4岸壁があります、これが耐震岸壁です。それと、一番左の下に東紀州広域防災拠点がありますが、これを結ぶ途中の右側の尾鷲港新田線の未着手区間のところですので、どうぞよろしくお願いいたします。

知事

第4岸壁、港、東紀州の防災拠点、尾鷲総合病院、尾鷲高校を結ぶこの道がちゃんと整備されてないと、災害があったときによくないと。尾鷲港新田線のここは300mが未整備になっているので、ここをしっかりと市民のために県も整備をしてもらいたいというのが、今の市長のお話です。

確かにおっしゃるとおり、耐震強化岸壁ですから、何か災害が起こったときに、この耐震強化岸壁のところに物資などを持ってきて運んでいくわけです。東紀州全体の広域防災拠点もつながっていますから、東紀州全体の物資にも影響しますので、ここの道路をつないでいくことは大変重要だと思っております、

県としても早期の整備について、尾鷲市と連携をして県が主体的にしっかり取り組んでいきたいと考えておりますが、この未整備区間にお墓やいくつかお家があるので、その補償の交渉などもしなければいけませんので、地元の皆さんとのお話が必要ですから、そのあたりもぜひ市長に、また、尾鷲市さんにご協力をいただければと思いますので、よろしく申し上げます。

尾鷲市長

これについても本当にあつかましいお願いですが、ぜひ取り組んでいただければありがたいと思います。我々としても共に取り組ませていただくぐらいのつもりで、ご協力させていただきたいと思いますので、これだけは何とかお願いしたいと思います。

(3) 閉会あいさつ

知 事

岩田市長、どうもありがとうございました。

今日は、喫緊の課題だけでも、すぐにあれこれというよりは、この尾鷲市がずっと持続可能にしていくための根本的な重要な課題を、人口減少のこと、食の産業のこと、林業という産業のこと、命を守るための道路の話、そういう尾鷲市が将来も次世代にこの町を引き継いでいくためにという根本的な課題についての議論をさせていただいたと思っております。ですので、明日何かやりますとか、今日何かやりますというのでなかったにしても、大変重要な意見交換をさせていただいたと思っておりますので、これからもぜひ連携をして取り組んでいきたいと思っております。

今日はどうもありがとうございました。